

ふれあい情報

2019年 4月1日(月) 第299号

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 菅井義夫
 ■連絡先 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

社会保障問題とは財源調達問題

赤字国債に頼る「給付先行型福祉国家」のあり方批判

今年は5年に一度の年金制度の財政検証が行なわれます。私たち高齢者が安心して暮らすためには年金制度をしっかりとしたものにしなればなりません。しかし安倍政権の下で負担増と給付削減が続いています。改正議論の本格化を前に退職者連合としてどう対応し、提言していきます。3月27日(水)、連合本部会議室を会場に慶応義塾大学の権丈善一教授を講師に招き、「大きな転換期にある社会保障と財政」をテーマに改革のポイントを学びました。権丈教授は、社会保障問題とは財源調達問題であり、赤字国債発行による「給付先行型福祉国家」は限界にきていること指摘し、改革を訴えました。学習会には、産別・関連退連、地方退連などから過去最高の約200人が参加しました。

改革の鍵は、年金への偏見なくすこと

会場を埋めた参加者を前に権丈教授は、『年金つてろくでもないよナ』という印象を持っているなら、そうでない事を理解して欲しい」とまず注文。

理由について「改革を着実に成功させるために、社会保障

障に対する国民の正確な理解と国民からの協力が大切だから」と説明しました。

国民の意識の中に偏見が生まれた原因として政治家や社会保障に関係する官僚や有識者、学者、マスコミの責任を上げ、「こうしたことが国民の社会保障制度への信頼を傷つけている」と話しました。



慶応義塾大学商学部 権丈善一 教授

年金は

『生涯の安心保険』

公的年金保険の課題については、①年金の適用拡大②保険料拠出期間と受給開始年齢の選択制の3つを上げ、2019年の財政検証では、特に適用拡大が大きなテーマになると示唆しました。(2面に続く)

2019年度政策・制度要求(素案) 率直なやりとりで連合と政策調整

第4回幹事会で確認された2019年度政策・制度要求素案について退職者連合は、3月28日(木)16時から連合本部で連合総合政策局と政策調整を行ないました。会合では、川端邦彦政策委員長が退職者連合の素案を説明、連合から示された2019年度重点政策実現の取り組み方針(補強)も含めて意見交換しました。



■左側・退職者連合からは、菅井義夫事務局長、野田那智子副事務局長、林道寛副事務局長、川端邦彦政策委員長、野口敏也組織委員長が出席。右側・連合からは、南部美智代副事務局長、川島千裕総合政策局長、春田雄一経済政策局長、山根正幸経済政策局長、小熊栄社会政策局長が出席した。(3月28日、連合本部)

財政検証の焦点は非正規への適用拡大

その上で「年金は『生涯の安心保険』との認識を持つことが重要だ」と述べました。

第11回幸せさがし文化展 作品募集のお知らせ

幸せさがし文化展は、連合と教育文化協会（ILEC）が主催して連合の定期大会開催年に合わせて2年ごとに開かれており、退職者連合も後援しています。

各分野の著名な方々が選者・審査員となっており、各賞では、高齢者・退職者を対象にしたシニア特別賞も設けられています。

退職者連合は、7年前から連合・ILECと連携して会員に広く応募を呼びかけています。

文化展への参加は、趣味を通じた退職者連合の会員の生きがいづくりにつながる文化活動です。ぜひ、ご応募ください。



80歳以上の方を対象にした「シニア特別賞」があります。ぜひご応募ください。

◆募集内容

絵画、写真、書道、俳句、川柳

◆応募資格・・・どなたでも応募可

◆締め切り・・・2019年5月31日(水)
*当日消印有効

◆送付先

〒135-0062 東京都江東区東雲2-2-3
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
東京美術品公募展支店
「連合・ILEC 幸せさがし文化展」係

◆賞 金

①絵画、写真、書道

大賞各10万円・シニア特別賞3万円

②俳句、川柳

大賞各5万円・シニア特別賞3万円

○詳しくは下記へご連絡ください。

(社) 教育文化協会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

TEL 03-5295-5421

ホームページは退職者連合で検索を

退職者連合

検索

年金問題の説明では「芋ようかん」に例え、「芋ようかんの分け方の問題（限られた年金資金を現受給者と将来受給者の孫・ひ孫世代とどう分配するか）」と芋ようかんを増やす問題（年金資金そのものをいかにして増やすか）」と説明。

「社会保障問題とは、結局のところ財源調達問題」と言い切りました。その上で「給付には敏感だが、財源の話、負担の話には無頓着、無理解な人たちが多い」と嘆く。

改革論議の核心である財源調達問題については、「福祉国家を支えるための巨額な財源を得るためには、課税対象が広い消費税に頼らざるを得ない」と述べ、

権丈教授は、社会保障の現状に触れ、「日本は、社会保障の給付を先取りさせてきた。給付先行型福祉国家であり、その財源を赤字国債に求めた」と解説。赤字国債依存による給付先行型は、未来にとって致命的な「宿命」を持つと述べ、「ない袖を振り続けたらどんな未来がやってくるのか」と警鐘を鳴らし、「給付先行型」

どんな未来がやってくるのか

い」と述べました。また高額所得者への課税を強化して財源とする主張には、「まったく足りない。どうしても万人の協力が必要」と述べました。

皆で支えあつて国づくりを

の問題点を指摘しました。

講演のまとめでは、「社会保障へのニーズを柱にして高齢者が生き生きと社会参加できる環境をつくることと、福祉国家としてこの国の付加価値を高め、皆で支え合える社会にする。必要なニーズには必要な給付をする制度をつくっていく。そのため負担は皆ですることが大事」と述べ、講演を締めくくりました。

(詳しくは、退職者連合のホームページをご覧ください)



▲これまでにない規模の参加者で埋め尽くされた会場。正面は主催者あいさつする人見一夫会長。(3月27日、連合会館3階)